

我が国の対ガーナ援助計画改定骨子（案）

2005年6月3日

目標：経済成長を通じた貧困削減の達成
－ 自立的経済成長のための、人造りと経済社会基盤を含む基本条件の整備－
主たる課題：農村部の活性化と産業育成

1. 対ガーナ援助の理念と目的

● アフリカ開発は国際社会が共有する重要課題

我が国は、国際社会全体の平和と発展のために、アフリカが抱える様々な課題に対し、経済力にふさわしい貢献をしていく責務を有する。ODA 大綱に基づき、人々を貧困や紛争など様々な脅威から保護し、能力強化を図る「人間の安全保障」の視点を重視しつつ、貧困削減や持続的成長に向けて、開発途上国の自助努力を支援していく。

● NEPAD に示されるアフリカ諸国の自立への意志を支援

アフリカ諸国が、援助依存からの脱却、貧困削減の達成と持続的な成長に向け、自らの責務として取り組む姿勢を示す今こそ、対アフリカ支援の率直な分析に基づき自助努力を支援することが我が国に求められる貢献。特に、東南アジアにおける成長に対する支援経験も踏まえ、アフリカの現状に即した貢献を果たしていく。

● ガーナの域内における重要性

ガーナは近年民主的選挙で政権交代を実現、混迷する西アフリカ地域にあって政治的・社会的安定を維持しつつ経済成長を志向している。同国は、外交上もアフリカ自身の手により域内の問題解決を図るとの流れの定着に貢献している。

● 民主的国家運営がアフリカで成功するか否かの試金石

ガーナは依然として脆弱な経済構造、貧困問題と地域格差を抱えながらも自立をめざし経済成長を志向。ガーナの開発の成否は、アフリカにおいて民主的な政治・経済運営が大多数の国民の生活の向上につながることを実証出来るかどうかの試金石。我が国はそのテイクオフを支援する必要がある。

2. 我が国の対ガーナ支援の中心的コンセプト（TICAD プロセスにおいて重視する対アフリカ支援3本柱との連関）

● 経済成長を通じた貧困削減

近年はマクロ指標が好転、貧困人口比率も改善。しかし、外部資金に依存し外的ショックに左右されやすい脆弱な経済構造、公共部門主導といった経済体質は継続。その

改善のため、基幹産業である農業振興と、産業の多様化・高付加価値化を支援することにより、経済の自立化を図り、雇用創出や経済・社会サービスへの向上を通じ、貧困を削減する。

● 人間中心の開発

一人あたりの国民総所得は低迷、人間開発指標でも低位。所得や地域間格差を是正すべく、社会サービスへのアクセス・質の格差の向上を図るとともに、一人一人を開発の担い手として捉え、人造りを通じて地域社会の能力強化を図る。

● 平和の定着

域内の不安定要因に対する外交的働きかけに積極的に関与するガーナへのエンドース。民主主義を基本として政治的安定を維持しつつ経済開発をすすめるガーナが、開発の成功モデルになるよう国際社会と共に協力していく。

3. ガーナにおける開発課題

(1) 経済・産業構造上の課題

- 一次産品への依存構造、輸入・援助依存の体質からの脱却・経済の自立化が課題。持続可能な成長の好循環の実現には、国内産業の振興と雇用創出、生産構造の多様化および産品の高付加価値化、さらに、基幹産業である農業生産振興及び地方・農村地域における収入の増加が必要。
- また、規律ある財政制度の確立、適切な予算執行が課題。従来の公共部門主導の成長から民間部門主導の成長に移行するには、健全なマクロ経済運営が重要。

(2) 貧困・国内格差の問題

- 地域格差(都市部と地方、南部と北部)や職業間格差などが拡大しており、特に社会サービスへのアクセスにおける地域格差は深刻。貧困削減には、こうした格差是正のためのアクセス改善や質の向上が重要。

(3) 行政能力・制度面の課題

- 適切な政策実施に向けた制度能力強化が必要。中央政府と地方両レベルにおける行政能力改善や制度整備、その実施に携わる人材の育成、能力向上が課題。

4. 我が国の対ガーナ支援の方向性

(1) 現行計画の改定を必要とするガーナの開発環境の変化

現行の国別援助計画(2000年策定)を改定し、下記のガーナの開発環境の変化に対応する。

● 拡大 HIPC イニシアティブの適用

我が国円借款の新規供与停止に伴い、贈与と技術協力を中心とした支援を実施していく。

● 共通開発指針としての貧困削減戦略文書(GPRS)の採択

ガーナ政府の開発優先課題とその達成の道筋を集約した GPRS の導入により、我が国の支援計画も、それに沿ったものとしていく。

- ガーナに於ける援助協調の進展

GPRS を軸にドナーが一体となって開発を進めていくために、調和化に向けた取り組みの進展や、主要ドナーが参加する一般財政支援の実施など援助モダリティの変化、さらにはセクターアプローチに代表される援助協調の進展に対し、わが国の援助ツールも対応させていくことを検討する。

(2) 我が国の対ガーナ支援における重点対象課題

経済成長を通じた貧困の削減を目指すガーナ政府の努力を支援するために、その優先開発課題の中から我が国が比較優位を有する下記の課題を選択する。課題達成のために資源とツールを有機的に連携させ、戦略的アプローチのもとで協力プログラムを形成・実施する。また、成果の持続性を確保するための所要の行政能力向上・制度整備を、課題達成への貢献度をふまえて選択的に支援する。

- 地方・農村部の活性化

小規模農家の所得向上を図るために、農業生産の基盤づくり、生産物の加工・流通、そのための地方インフラ・基盤整備を通じて、地方農村部の経済活動の活性化を促進する。また、農村全体の自立・発展のために、投入を総合的かつ相互に関連づけ、地方住民への基礎生活分野のサービスデリバリー・アクセスの改善を支援する。

戦略プログラム1： 農業振興

戦略プログラム2： 地方・農村部の基礎生活の改善

- 産業育成

競争力ある地場産業を育成し雇用機会の拡大を図るために、中小企業の育成、農村工業への支援、投資環境の整備、経済インフラの整備を支援する。農工間のリンク強化にも配慮する。また、それを支える産業人材の育成を、職業教育・理数科教育の質の向上を通じて支援する。

戦略プログラム3： 地場産業の振興

戦略プログラム4： 産業人材の育成

- 行政能力向上と制度整備

上記課題の達成を促進し、また成果の持続性を確保するために、要所に関わる中央並びに地方行政機関の選択的な能力強化と制度整備を図る。

(3) 国別援助計画の実施上の留意点

上記の課題達成に向けて協力プログラムを形成・実施する際に、以下の点に留意する。

- 良好なガバナンスおよび自助努力の確保

透明性の高い政策・事業運営ならびに、カウンターパートの配置、内貨確保への努力は現行の投入規模を維持する最低条件。

- 予測性の向上、評価と事業形成のリンク強化

重点課題の達成に向け中期的視点で戦略的に協力プログラムを形成。その際に 3-5年後の達成目標を設定、極力アウトカム指標を導入し逐次プログラム形成に反映。

● 実施手法の改善、援助協調への能動的関与

技術移転、能力強化、制度整備を目的とするパイロット事業の場合、形成段階から成果を面的に拡大するためのシナリオとそれを可能にする資金ツールを検討。また、我が国の支援で得られた技術・制度の普及を含め、共有された課題達成を効果的に支援するために他ドナーとの有機的連携を図り、それを可能にする財政支援型のツール開発を検討する。

● 政策対話の強化

プログラム形成、事業策定に際しては、ガーナ政府各部局との政策対話を強化し、セクター政策、省庁予算とのリンクを確保する。同時に、そのプロセスを通じ、課題達成のための各省庁間の連携強化を促す。

(了)

別添:

- 目次(案)
- 重点開発課題・重点事項(案)
- 協力図(案)

対ガーナ国別援助計画 目次(案)

1. 目的と理念
 - (1) 我が国の対アフリカ支援と対ガーナ援助の意義
 - (2) 対ガーナ援助の目的と重点事項

2. ガーナの開発に関わる状況
 - (1) 政治、経済、社会全般の概況
 - (2) 経済・産業構造上の課題
 - (3) 貧困・国内格差の課題
 - (4) まとめ

3. ガーナの開発戦略および援助の動向
 - (1) ガーナの開発戦略
 - (2) ドナー・コミュニティの動向
 - (3) 各ドナーの特徴

4. 我が国の対ガーナ援助の分析と評価
 - (1) 我が国の対ガーナ援助の推移
 - (2) 我が国の援助で積極的に評価すべき点
 - (3) 我が国援助の課題

5. 我が国の対ガーナ援助の基本方針
 - (1) 基本的視点・目標
 - (2) 対ガーナ援助の重点開発課題
 - (3) 対ガーナ援助規模について
 - (4) 地域的配慮
 - (5) 実施上の留意点